

医療 再建

▶2

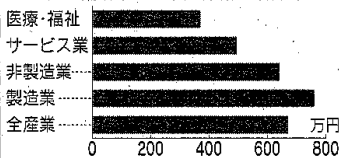
看護・介護に150万人 人材確保の妙薬探る

員を今より合わせて150万人増やす必要がある。問題は新たな人手をどう集めるか。

政府は医療・介護を成長戦略の柱に据えた。だが、労働生産性（1人当たり付加価値額）で見ると、医療・福祉は製造業の半分以下。医療・福祉で働く人が急増すると「経済全体の成長は危うくなりかねない」（第一生命経済研究所の熊野英生首席エコノミスト）。働き方を変え、労働効率を高める必要がある。

例えば、医師が看護師に、

医療・福祉の労働生産性は低い
(10年度、第一生命経済研究所作成)



看護師が介護職員に仕事の一部を委ねられるよう役割を見直す。以前は医師と看護師だけが手がけた「たんの吸引」は今年4月から介護

職員も手がけられるようになり、現場の負担は減った。見直しには抵抗もある。寝たきり患者の壊死(えし)した皮膚組織をハサミで取

食事を介助するインドネシア人介護福祉士のウエルヤナさん(右)とティアスさん(4月、横浜市の「緑の郷」)

り除き、必要なら電気メスで止血。医師の指示があれば、こうした高度な措置もできる「特定看護師」は在宅医療に欠かせない。だが、日本医師会などの反対で法案作りが進まない。

短時間だけ働きたい高齢者や日本で数年間働きたい外国人。医療や介護はこうした多彩な人材が活躍できる余地もある。

(東京・品川)は4月、60歳以上の高齢者だけを集め、介護施設などに派遣する事業を始めた。無理のないよう働くのは週3回。賃金は現役世代より割安だが、派遣登録する高齢者も徐々に増えている。

横浜市青葉区の特別養護老人ホーム「緑の郷」。食堂で2人のインドネシア人女性が、たどたどしい日本語で入居者に話しかけ、笑顔を引き出していく。経済連携協定(EPA)で4年前に来日したティアス・パルビさんとウエルヤナ・オクタフィアさんだ。今年の介護福祉士の国家試験、合格率37.9%の難関をティアスさんから36人の外国人が